

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-3-3 国際化と多文化共生の推進
---------	----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化国際課長 坂本 偉健	電話番号	0852-22-6006
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	外国人住民との共生事業		
目的	(1) 対象	県内外国人住民	
	(2) 意図	県内で生活し易くする	
事業概要	外国人住民との共生を目指す「多文化共生社会」を推進するため、しまね国際センターと連携して通訳や災害時サポーターなどボランティア登録を行い、外国人住民に近いところでの生活支援を行ったり、災害対応に備える。 日本語教室に対する経費助成や、各種ボランティアのスキルアップを図るための研修等を実施する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	ボランティヤ登録者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		505.00	510.00	515.00	520.00	
式・定義	国際交流・協力ボランティヤ等の登録者数	実績値	500.00	542.00	571.00	620.00		人	
		達成率		107.30	112.00	120.40		%	
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00	0.00	0.00	
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00	0.00		
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,971	1,650
うち一般財源(千円)	1,971	1,650

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

県民生活に直結する事業であり、継続して多言語による相談業務、日本語教室への運営支援、災害時のボランティヤ養成の取り組みを(公財)しまね国際センターに業務委託することによって、地域の国際化を目指す拠点として継続的なネットワーク化を図ることができ、ボランティヤ登録者の支援・連携が可能となっている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

しまね国際センターの動きかけにより、新たなボランティヤ登録者は増加傾向にあり、多文化共生への理解は少しずつではあるが進みつつある。
日本語教室は、在住外国人にとって日本語の修得のみならず、文化や習慣の理解など日本での生活自体を支援する側面があり、外国人の社会参加活動を促し、地域社会の安定・活性化に役立っている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

近年、相談事例が複雑化・深刻化しており、相談を受けた時点では手遅れになっていたり、介入が遅かったため解決までに時間・労力を要するケースが増えている。

②困っている状況が発生している「原因」

外国人住民の在留期間の長期化、定住化による。

③原因を解消するための「課題」

外国人住民により近い形での相談体制の確立が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

効果的な連携・協力体制を構築するため、特に市町村との役割分担の明確化及び連携を強化しつつ、外国人住民と市町村・関係機関との橋渡し役をする相談支援員の設置を行う。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）